

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町丑523番1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれ季節感を感じながら、穏やかに暮らして頂いています。 ・一人ひとりが、自由に楽しく、入居者、職員等気持ちの良い挨拶で朝が始まり、みんな仲良く笑顔で生活しています。 ・リハビリ体操、口腔体操、頭の体操等で身体能力維持に励んでいます。 ・利用者様の本意がどこにあるのか、日々の生活の中で、会話の中で感じられるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国道沿いにある事業所は、純和風で落ち着いた趣のある建物である。旧中山町に平成19年に開設された唯一のグループホームで、地域住民に頼られる事業所を目指し地道に努力を積み重ねている。地域の防災訓練を事業所と合同で実施したり、地域行事の花見など利用者と一緒に参加したり、事業所で開催する行事に参加協力を得るなど相互に助けあう関係を築いている。事業所では利用者「一人ひとりが自由に安心して暮らせる」ことを理念に掲げ、職員間での話し合いを大切にしながらサービスの質の向上に努めている。職員は、一人で外出しようとする利用者に約3時間付き添い歩くなど、利用者のペースに合わせた支援をしている。利用者の希望に応じて、馴染みの場所にドライブに出かけるなど、利用者の思いに寄り添った支援に努めている。また、利用者の持っている能力を生かして、暮らしの中で役割を持つことができるよう支援している。利用者職員が相互に感謝の言葉を言い表している様子が印象的であった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) ほたる棟

記入者(管理者)
氏名 岡田 絹子

評価完了日 平成 26 年 7 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム内の理念を作りホームに掲示している。理念の共有はできている。しかし職員の異動もあり全スタッフが理念を理解しているとはいえない。地域密着型サービスの意義の理念を組み入れている。少しずつではあるが地域の方と交流が図られている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基にして、職員全員で話し合いユニット毎の事業所独自の理念を作成している。職員は理念に沿って、利用者が安心して暮らせるよう、気持ちやペースに合わせたケアを心がけている。ケアに行き詰った場合は、業務カンファレンスで職員間で理念に立ち戻って話し合い、利用者本位のケアが実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議の実施、お祭りなどのみこし、おいのこさん等の受け入れ、近所への買い物、散歩等に行くようにしている。年一回の家族会に地域の方の参加もあり交流できている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し、地区の班長に依頼して「秦皇だより」を回覧してもらっている。地域行事となっている花見会には利用者と一緒に参加したり、職員が祭りの片づけを手伝うなどして、相互の協力をしながら地域に溶け込めるよう努めている。また、小、中学校の職場体験を受け入れ、一緒に歌を歌ったり、おやつを食べ交流を楽しんでいる。年1回開催する家族会やクリスマス会には、近隣住民にも声をかけ、参加してもらうなど交流を広げている。事業所が地域住民にとって、身近な存在になるよう試行錯誤している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 不十分ではあるが運営推進会議で認知症の人の理解や支援の方法を話し合いしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事等サービス取り組み状況を伝え、消防署避難訓練への参加を踏まえた話し合いをしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、地区の広報委員や班長、民生委員、駐在署員、市担当者等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では事業所の活動を報告しているほか、避難訓練などを合同で実施する工夫をしている。参加者からは活発な意見が出され、貴重な提案をいただき運営に反映している。また、職員も交代で出席し、学びの場として役立っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、地域ケア会議に参加し情報交換を行っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、気軽に相談できる関係が築かれている。管理者は、市主催の地域ケア会議に出席して状況報告を行うなど相互の連携を図っている。地域包括支援センターの職員から空室状況の問い合わせや、居宅の介護支援専門員から入居の問い合わせがあるなど、利用に繋がったケースもある。また、市生活保護担当者と連携し、協力して支援をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修の参加、ケアカンファレンス、業務カンファレンス時に話し合いを行い身体拘束をしないケアを職員に周知し実施している。	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一人で外出しようとする利用者には約3時間付き添いながら歩いた経験もある。外部研修の伝達や拘束の定義などを業務カンファレンスで話し合い情報を共有しており、理解して身体拘束をしないケアを実践している。また、不適切な言葉づかいに気づいた場合は、その都度職員間で注意をし合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の参加、研修の結果をホームで話し合い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で学ぶ機会を持っており、関係者と必要性を話し合い、また、それらを活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者家族の不安がないよう十分に説明をするようにしている。また、疑問等を持たれた場合は、随時対応し理解して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の方へ意見を表せる機会はあまり持っていない。利用者の意見は日々の生活の中で会話から気持ちを引き出し、その方にとっていい環境が作れるよう努力している。家族の意見は、家族の来訪時に聞いている。また現状報告している。	
			(外部評価) 面会時には職員から家族に声をかけ、利用者の様子を報告し、意見や要望を聞くよう努めている。家族から出される意見は少ないが、職員は些細なことでも対応するよう心がけており、情報交換をしながら信頼関係の構築に努めている。また、日々の会話や利用者の表情を見ながら、意見や要望を把握するよう努めている。出された意見や要望は職員全員で話し合い、運営に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の勤務時間を含め職員の意見に耳を傾け反映させている。一ヶ月に一回管理者会議の開催、カンファレンスを月一回行っている。不定期に面接を行っている。	
			(外部評価) 月1回業務カンファレンスを開催し、職員間で課題を持ち寄り話し合いをしている。管理者は職員が意見や提案を出し合うことの必要性を感じており、話し合いの内容によって結果を導き出す過程を大切にしている。職員から出された要望は、毎月開催される法人の管理者会議で報告し反映できるよう努めている。また、職員一人ひとりの年度の目標を立て、管理者等は年2回の個人面談を行い達成状況などの確認をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力等勤務状況を把握するようにしている。しかし、職員環境の整備に努力が必要と思われ、特に給与水準に努力が必要である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内で業務カンファレンス時職員が担当をして勉強会を行っている。外部研修を受けた職員からその内容の報告の発表を行っている。働きながらのトレーニングはできていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者と同じ研修に参加したり介護をもって交流に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の過去現在希望不安等を聞き、理解しているようにしている。内的感情にどこまで迫れるか傾聴している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方の要望、不安等は電話、訪問時にお話しを聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階で本人家族と話し合い、どのような支援が良いか考え対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人に任せきりにならないよう出来ることはして頂く様関係を築けるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方には、面会時電話等で近況報告し本人を支えていくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの場所や人があまりないが、今までに行ったことがあるところへ希望する場合は同行訪問している。 (外部評価) 入居時に利用者や家族、以前利用していた施設担当者から情報を収集し、生活歴や馴染みの関係などを把握するよう努めている。「姉の嫁ぎ先に行きたい」という利用者の要望に応じて、職員と一緒に出かけ、姉の親族に会って話をすることで、安心することができた事例もある。また、地元出身の利用者が多く、近隣に住んでいる知人等が訪問してくれることもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握している。関わりの不十分な方には職員が間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者家族の方は、現在おられない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向は会話の中にあり暮らしの希望、意向の把握に努めている (外部評価) 日々の生活の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。利用者の中にある感情に迫れるよう、職員は傾聴する姿勢を心がけている。思いを言い表すことが困難な利用者には、家族から情報を聞いたり、表情などを観察するよう努めている。また、カンファレンスの場で職員間で話し合い情報を交換して共有する中で、思いをくみ取ろうとしている。また、介護記録は1日の過ごし方だけでなく、会話の内容を記録することにより、利用者の思いを把握しようと努めている。	介護記録などに利用者の言葉にはならない表情や反応などを記録に残すことにより、新たな気づきが発見でき、利用者の理解がさらに深まることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の事前調査、アセスメントで情報を得ている。また、家族からの情報等で経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方、身体状況は把握できている。心の有する力は把握に至っていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回全員でケアカンファレンスを行い、本人・家族の希望等を話し合い、利用者本意の計画になるよう努力している。また、利用者が日々の生活の中で変化があったときは、その都度話し合って計画に反映させている。	
			(外部評価) 初回の介護計画は計画作成担当者が作成し、2回目以降は利用者毎の各担当者が利用者や家族の意向を反映して、カンファレンスで話し合い作成している。日々の介護記録は、介護計画に基づいた実施状況を記載できるようになっており、職員は常に介護計画の目標などの内容を意識して、ケアを実践している。3か月に1回モニタリングを行い、必要に応じてカンファレンスを開催し見直しをしている。介護計画は家族の訪問時などに説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活を書いた個別介護記録をし、月一回ケアカンファレンスをする。三ヶ月に一回ケアプランの見直しをしている。情報を共有し現状にあったプランを作成し実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の同意の元に受診等の支援を行っている。その時のニーズに対応し変化に応じたサービスができています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源は把握している。しかし実際に地域資源と共同ということができるのがかなり少ない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医が月二回以上の往診、緊急時の対応もできるよう になっている。本人家族の了解の元専門医の受診も支援してい る。	
			(外部評価) 月2回協力医の往診があり健康管理をしてもらえることから、 ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医としている。週1 回訪問看護が来訪し、利用者や職員の相談に応じてもらって いる。歯科などの専門医は職員が受診介助したり、往診での 対応をしてもらったりしている。受診内容はその都度家族に 報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週一回看護師の訪問があり相談し適切な対応ができています。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 緊急時だけでなく、日ごろから連携をとり情報交換、相談を をしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化の看取りに対しては、家族の意思を尊重し家族職員医 師が話し合いをしている。特に看取りに関しては、家族の全 面的な協力が必要であると思われ話し合いをしている。	
			(外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、協力医と連携 を図りながら看取りを行う方針としており、今までに複数の 看取りを経験している。状態の変化などの段階に応じて医師 等と話し合いを行い、利用者や家族等の意向をその都度確認 し、穏やかに終末期を過ごせるよう努めている。協力医と24 時間対応できる体制が整っており、医師や看護師等と連携し ながらチーム体制での支援に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を受け急変時の対応に備えている。年一回の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応は話し合っている。火災時大規模災害の訓練を実施している。地域の方の参加はない。近所の方への応援は要請している。食糧等の備蓄も取り組んでいる。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得た避難訓練を実施している。今年度の訓練は運営推進会議と合わせ、近隣住民も参加してもらい、夜間を想定した火災時の避難訓練を実施しており、実際に利用者に消火器での消化訓練を体験してもらっている。事業所の横には川があり、洪水などを想定した基準も検討している。管理者は訓練を実施することにより明らかになった課題を解決するため、さらに近隣住民の協力を求めながら安全確保を検討している。	管理者は、さらに地元の消防団との連携を図ることを考えており、より多くの近隣住民と協力関係を構築し、災害時に協力が得られることを期待したい。また、職員は夜間の避難誘導などに不安を持っているため、利用者が安全に戸外に避難できるよう避難口の段差解消等の環境整備を行ったり、緊急連絡網を使用した訓練を行うなどの取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応に注意している。大声で話さない。本人が失敗された時さりげなく対応する等心がけている。 (外部評価) 管理者は利用者一人ひとりのプライバシーを確保するため、守秘義務を守ることを重要視し、業務カンファレンス等の場で職員に伝え、徹底している。また、職員が利用者の人格を尊重するためには、言葉づかいが重要であることを理解しており、否定しない声かけをするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に着替えの服を選んで頂いたり、飲み物も決めて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴等職員の立場を優先する事がある。しかし大半は何時に何をすることはせず、その方の今を大事に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は、2~3ヶ月に一回美容師来所で対応している。服など選ぶことができない方もいらっしゃるのでは、職員が考えてその方にあつたおしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、準備、片付け等をして頂いている。味付けも全般的に「おいしい」と言ってもらえる味付けになるようにしている。 (外部評価) 法人で献立を作成し、食材は地元商店に注文し配達してもらい、担当職員が交代でアレンジして調理している。誕生日にはケーキを手作りし、お祝いしている。利用者の嚥下状態等に応じて、食事形態を工夫して食べやすいよう支援している。また、長時間座位を保つことのできない利用者には、居室で利用者のペースに合わせた食事介助をしている。食後には、全員の食器洗いを手伝う利用者があり、職員は感謝の気持ちを伝えている。利用者が座る座席の配置にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量・食事量のチェックをしている。それを見て不足の時は意識的に声かけをし水分摂取を促している。水分はいつでも飲むことができるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人々航空ケアはできている。歯磨きができない方は航空ケア用ガーゼで拭いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 時間で行かれている方は、時間を見て声かけ誘導している。意思表示ができない方は、その方の様子を観て誘導している。</p> <p>(外部評価) チェック表を用いて利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけをしてトイレへ誘導している。3か所あるトイレは、利用者の身体状態に応じて使い分けており、トイレ内には利用者が作ったペーパーバックやお尻ふきが置かれ、使用した紙オムツを覆い隠す工夫がされている。また、オムツなどの利用者にあった排泄用品を選択したり、夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援をしている。肋骨骨折の治療をした利用者が、トイレへの誘導を行い排泄支援したことにより、利用者自身でトイレへ行けるようになった事例もある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分摂取チェック表等を利用し定期的な排泄ができるようにしている。時には薬（下剤）で対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 個々の希望に応じた入浴ができるようにしている。清潔を保つため日は決めず、入浴していただいている。</p> <p>(外部評価) 週3回の入浴であったが利用者の希望もあり、毎日入浴できるよう対応している。入浴を嫌がる利用者には、声かけやタイミング、職員を交代するなどの工夫をし、気持ち良く入浴できるよう支援している。管理者は職員の声かけの仕方により利用者の安心感が異なってくると考えており、気持ちの良く声かけをする配慮などを指導している。また、浴槽に浸かることが困難な利用者にはシャワーキャリーを活用し、シャワー浴を行うなど清潔保持に努めている。また、清拭をして清潔を保つ場合もある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) なるべく昼からは休息して頂けるような時間を作っている。安心して気持ちよく休まれるよう見守り見回りをし空調等を整えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報をファイルにして職員が用法・副作用を理解できるようにしている。その後の状態も記録にし、様子観察できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の役割、楽しみごとの支援をしている。例えば、紙で折る箱作り、ペーパー折り、紙ちぎりをしている。また役割として「洗濯物をたたむ」ということをして頂き、やりがいのある日々を送っていただけているようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出支援は出来ていない。デッキやホームの周り等に出でいける。普段行けないところには家族の協力ででかけられている。時々職員が車で支援するときもある。 (外部評価) 中庭のウッドデッキには自由に出ることができ、日常的に外気浴を楽しんでいる。事業所の隣にはコンビニがあり、利用者と散歩がてら買い物に出かけている。利用者の希望に応じて、遠方のスーパーや道の駅などにドライブに出かけることもある。また、季節に応じて、地域行事となっている花見や涅槃像の参拝に出かけるなど、利用者が外出を楽しめる機会を提供できるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人がお金を持っていたい意思のある方は所持しておられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでもかけたいときかけられるようにしている。手紙はやり取りまでにはいかず、受け取った手紙をお渡ししているので返事は書くことができていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、季節の花等を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。光は遮光カーテンで調節している。室温は空調にて行っている。	
			(外部評価) オープンキッチンのあるリビングは明るく広々としている。ソファが置かれているほか、畳コーナーもあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には職員が制作した朝顔や花火など季節の飾りつけをしている。また、利用者が作成した作品や書道、記念写真が飾られ、和みのある空間となっている。環境整備が行き届いており、利用者が落ち着いて居心地よく過ごせるよう配慮している。中庭にはウッドデッキや花壇があり、落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の座るところを決めている。安心して過ごせる場所を決めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真等を飾ったり使い慣れた毛布、タオルケット等を使用して頂き、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 居室はベッド、洋服ダンス、整理ダンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。テレビや家具など利用者の使い慣れた物を持ち込み、お気に入りのぬいぐるみや家族写真を飾るなど、利用者が落ち着いて居心地良く過ごせる空間となっている。シーツなどの寝具はレンタルでの対応もしている。また、寝室と洗面所を仕切るカーテンが設置されており、利用者のプライバシーを確保する配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドで寝る習慣がついていない方は、安全のために床にマットを敷いて寝られている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町丑523番1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれ季節感を感じながら、穏やかに暮らして頂いています。 ・一人ひとりが、自由に楽しく、入居者、職員等気持ちの良い挨拶で朝が始まり、みんな仲良く笑顔で生活しています。 ・リハビリ体操、口腔体操、頭の体操等で身体能力維持に励んでいます。 ・利用者様の本意がどこにあるのか、日々の生活の中で、会話の中で感じられるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国道沿いにある事業所は、純和風で落ち着いた趣のある建物である。旧中山町に平成19年に開設された唯一のグループホームで、地域住民に頼られる事業所を目指し地道に努力を積み重ねている。地域の防災訓練を事業所と合同で実施したり、地域行事の花見など利用者と一緒に参加したり、事業所で開催する行事に参加協力を得るなど相互に助けあう関係を築いている。事業所では利用者「一人ひとりが自由に安心して暮らせる」ことを理念に掲げ、職員間での話し合いを大切にしながらサービスの質の向上に努めている。職員は、一人で外出しようとする利用者に約3時間付き添い歩くなど、利用者のペースに合わせた支援をしている。利用者の希望に応じて、馴染みの場所にドライブに出かけるなど、利用者の思いに寄り添った支援に努めている。また、利用者の持っている能力を生かして、暮らしの中で役割を持つことができるよう支援している。利用者職員が相互に感謝の言葉を言い表している様子が印象的であった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) くり棟

記入者(管理者)

氏名 岡田 絹子・高橋 龍平

評価完了日 平成 26 年 7 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内ホーム内の理念があり掲示している。全職員、理念の共有できていて日々の実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基にして、職員全員で話し合いユニット毎の事業所独自の理念を作成している。職員は理念に沿って、利用者が安心して暮らせるよう、気持ちやペースに合わせたケアを心がけている。ケアに行き詰った場合は、業務カンファレンスで職員間で理念に立ち戻って話し合い、利用者本位のケアが実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 小学生・中学生の訪問を受け入れ、運営推進会議の実施、祭りのみこし、おいのこさんの受け入れをしている。近所への買い物・散歩等にも行っているが日常的な交流には至っていない。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し、地区の班長に依頼して「秦皇だより」を回覧してもらっている。地域行事となっている花見会には利用者と一緒に参加したり、職員が祭りの片づけを手伝うなどして、相互の協力をしながら地域に溶け込めるよう努めている。また、小、中学校の職場体験を受け入れ、一緒に歌を歌ったり、おやつを食べ交流を楽しんでいる。年1回開催する家族会やクリスマス会には、近隣住民にも声をかけ、参加してもらおうなど交流を広げている。事業所が地域住民にとって、身近な存在になるよう試行錯誤している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に一回の運営推進会議に地域の方に参加して頂き認知症についての話し合いをしたり、学生の総合学習の受け入れを行う事で地域の人々の理解や支援を少しずつ行ってきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回会議を開催し意見交換を行っている。参加者の意見を参考にサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。また、運営推進会議は話し合いだけでなく行事にも参加していただき様々な意見をいただいてサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、地区の広報委員や班長、民生委員、駐在署員、市担当者等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では事業所の活動を報告しているほか、避難訓練などを合同で実施する工夫をしている。参加者からは活発な意見が出され、貴重な提案をいただき運営に反映している。また、職員も交代で出席し、学びの場として役立っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、ケア会議等に参加したり電話等で情報交換を行っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、気軽に相談できる関係が築かれている。管理者は、市主催の地域ケア会議に出席して状況報告を行うなど相互の連携を図っている。地域包括支援センターの職員から空室状況の問い合わせや、居宅の介護支援専門員から入居の問い合わせがあるなど、利用に繋がったケースもある。また、市生活保護担当者と連携し、協力して支援をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修の参加またはケアカンファレンス、業務カンファレンス時に話し合い、日々の業務の中で職員同士声かけ見守りを行い、身体拘束をしないケアを心がけている。	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一人で外出しようとする利用者には約3時間付き添いながら歩いた経験もある。外部研修の伝達や拘束の定義などを業務カンファレンスで話し合い情報を共有しており、理解して身体拘束をしないケアを実践している。また、不適切な言葉づかいに気づいた場合は、その都度職員間で注意をし合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の参加、ホームでの話し合いの場を設け虐待防止に努めている。事業所内で学ぶ機会を持っており重要性を関係者と話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で学ぶ機会を持っており、必要性を関係者と話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、家族が不安がないよう十分に説明をするようにしている。また契約の改定時には利用者、家族の納得が得られるよう十分に説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の方へ意見を表せる機会はあまり持っていない。しかし、利用者の意見は日々の生活の中での会話から意見・要望を確認しそれを運営に反映している。また、ご家族の意見は面会時随時聞かせて頂き運営に反映している。	
			(外部評価) 面会時には職員から家族に声をかけ、利用者の様子を報告し、意見や要望を聞くよう努めている。家族から出される意見は少ないが、職員は些細なことでも対応するよう心がけており、情報交換をしながら信頼関係の構築に努めている。また、日々の会話や利用者の表情を見ながら、意見や要望を把握するよう努めている。出された意見や要望は職員全員で話し合い、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回管理者会議、業務カンファレンス、ケアカンファレンスを開催し、職員が意見や要望を言えるようにしている。日々の勤務時を含め常に職員の意見提案を聞き反映させる努力をしている。 (外部評価) 月1回業務カンファレンスを開催し、職員間で課題を持ち寄り話し合いをしている。管理者は職員が意見や提案を出し合うことの必要性を感じており、話し合いの内容によって結果を導き出す過程を大切にしている。職員から出された要望は、毎月開催される法人の管理者会議で報告し反映できるよう努めている。また、職員一人ひとりの年度の目標を立て、管理者等は年2回の個人面談を行い達成状況などの確認をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力、状況を把握しているようにしていると思われるが、更なる職場環境条件の整備に努力が必要と思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 棟事業所では、毎月勉強会を実施している。年2回社内研修があり職員の参加を促している。社外研修へ参加する場合は参加費用の負担を行っているものもある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者会議にて他事業所との意見交換を行っている。また行事にて交流も図っている。見学等の受け入れを行ったり、研修に参加する事で同業者との交流、情報交換する機会を作っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前調査で本人の希望不安を聞くと共にその方の過去、現在を理解して不安なく過ごせるよう信頼関係を築く努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査及び施設見学時で困っている事、不安な事、希望等を聞く機会を作り信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族との話し合いの中で、その時必要としている支援を見極めようと努力している。支援が困難な場合は、再度、本人家族と話し合いながらサービス利用も含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の力に応じた作業を一緒に行い生活に役割を持って頂けるよう支援している。一緒に作業する中で共に暮らしを支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方が、以前から利用者の方が得意としている事を行えるようにして頂いている。家族の方にもできるだけ協力して頂き、共に本人を支えていける関係を築くよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 十分とはいえないが、家族の方、友人の方から手紙を頂く事があれば返信のお手伝いをしたり電話の取り次ぎを行っている。また、地元の店や自宅等馴染みの場所に出かけられるよう支援に努めている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族、以前利用していた施設担当者から情報を収集し、生活歴や馴染みの関係などを把握するよう努めている。「姉の嫁ぎ先に行きたい」という利用者の要望に応じて、職員と一緒に出かけ、姉の親族に会って話をすることで、安心することができた事例もある。また、地元出身の利用者が多く、近隣に住んでいる知人等が訪問してくれることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の関係を把握し、部屋での閉じこもりや孤立等なく良好な関係が築けるよう声かけ、環境（席替え）等に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 機会があれば、できるだけフォローする体制でいるが現在は継続的な関わりは出来ていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々利用者の思いの把握に努めており会話など記録し共有している。困難な場合は、家族、本人の意向に沿えるようケアカンファレンス等で話し合い努力している。 (外部評価) 日々の生活の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。利用者の内にある感情に迫れるよう、職員は傾聴する姿勢を心がけている。思いを言い表すことが困難な利用者には、家族から情報を聞いたり、表情などを観察するよう努めている。また、カンファレンスの場で職員間で話し合い情報を交換して共有する中で、思いをくみ取ろうとしている。また、介護記録は1日の過ごし方だけでなく、会話の内容を記録することにより、利用者の思いを把握しようと努めている。	介護記録などに利用者の言葉にはならない表情や反応などを記録に残すことにより、新たな気づきが発見でき、利用者の理解がさらに深まることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査、家族からの情報、日々の生活の中の会話などから把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録や業務日誌、申し送りノート、医療連携往診時等職員ひとりの観察ではなく他の情報も共有し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回のケアカンファレンスで本人・家族の意向・要望を参考に職員で話し合い介護計画を作成し、同意のもと実施している。また同会議にて実施状況、問題等についても話し合っている。	
			(外部評価) 初回の介護計画は計画作成担当者が作成し、2回目以降は利用者毎の各担当者が利用者や家族の意向を反映して、カンファレンスで話し合い作成している。日々の介護記録は、介護計画に基づいた実施状況を記載できるようになっており、職員は常に介護計画の目標などの内容を意識して、ケアを実践している。3か月に1回モニタリングを行い、必要に応じてカンファレンスを開催し見直しをしている。介護計画は家族の訪問時などに説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 心身状態の報告や介護記録に日々の状況を記入して、職員間で共有しながら介護の実践見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 話し合いのもと要望等があれば前向きに検討している。療養マッサージの受け入れやお墓参り等のサービスを行っている。また入居者に変化等があれば神南診療所に連絡報告し指示を受けている。そして週一回訪問での医療連携看護師による体調管理を行って頂いている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資料は把握しているが、身体的な事を考えると地域資料活用は、まだまだ不十分で発揮できていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設のかかりつけ医往診が月2回以上ある。常に主治医、医 療連携看護師に連絡を取り適切な医療が受けれるようにして いる。また本人、家族の希望があれば他の医療機関、専門医 も受診できるようにしている。 (外部評価) 月2回協力医の往診があり健康管理をしてくれることから、 ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医としている。週1 回訪問看護が来訪し、利用者や職員の相談に応じてもらっ ている。歯科などの専門医は職員が受診介助したり、往診で の対応をしてもらったりしている。受診内容はその都度家族に 報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病院への状態報告や医療連携看護師に随時報告や相談を行っ ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 体調の変化や急変時には、相談や情報交換に病院関係者との 関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明は行っている。また、重度化や終末期につい ては本人や家族の意思を尊重し、主治医・医療機関看護師と話 し合い、早い段階から事業所での可能な対応について十分説 明し方針を共有している。職員には、カンファレンス等で意 識統一を図っている。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、協力医と連携 を図りながら看取りを行う方針としており、今までに複数の 看取りを経験している。状態の変化などの段階に応じて医師 等と話し合いを行い、利用者や家族等の意向をその都度確認 し、穏やかに終末期を過ごせるよう努めている。協力医と24 時間対応できる体制が整っており、医師や看護師等と連携し ながらチーム体制での支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習を受けたり、シュミレーションを実際に行ったり、緊急時にすばやく対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年2回行い全職員が対応できるようにしている。近隣住民にも参加を呼び掛けている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得た避難訓練を実施している。今年度の訓練は運営推進会議と合わせ、近隣住民も参加してもらい、夜間を想定した火災時の避難訓練を実施しており、実際に利用者に消火器での消化訓練を体験してもらっている。事業所の横には川があり、洪水などを想定した基準も検討している。管理者は訓練を実施することにより明らかになった課題を解決するため、さらに近隣住民の協力を求めながら安全確保を検討している。	管理者は、さらに地元の消防団との連携を図ることを考えており、より多くの近隣住民と協力関係を構築し、災害時に協力が得られることを期待したい。また、職員は夜間の避難誘導などに不安を持っているため、利用者が安全に戸外に避難できるよう避難口の段差解消等の環境整備を行ったり、緊急連絡網を使用した訓練を行うなどの取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重している。状況に応じて個人に対応した言葉や対応に努めている。 (外部評価) 管理者は利用者一人ひとりのプライバシーを確保するため、守秘義務を守ることを重要視し、業務カンファレンス等の場で職員に伝え、徹底している。また、職員が利用者の人格を尊重するためには、言葉づかいが重要であることを理解しており、否定しない声かけをするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が希望しやすいようコミュニケーションを取りながら声かけや雰囲気作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員に余裕がない時などは、職員側の都合が優先する場合もあるが、入居者の安全を考慮したものであり、一人ひとりのペースにあわせてできるだけ希望に添うよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容を利用してのカット、毛染めやパーマ等は希望に添って行って頂いている。入浴後の衣服は、なるべく本人に選んでもらっている。選べない人はその人らしく職員が考えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人に合わせた食事の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等一人ひとりに出来る事や好みで協力して頂いている。季節にあった旬な食材を利用し提供をしている。	
			(外部評価) 法人で献立を作成し、食材は地元商店に注文し配達してもらい、担当職員が交代でアレンジして調理している。誕生日にはケーキを手作りし、お祝いしている。利用者の嚥下状態等に応じて、食事形態を工夫して食べやすいよう支援している。また、長時間座位を保つことのできない利用者には、居室で利用者のペースに合わせた食事介助をしている。食後には、全員の食器洗いを手伝う利用者があり、職員は感謝の気持ちを伝えている。利用者が座る座席の配置にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量のチェック、身体の状態に応じて不足部分を促したり、食事の形態を変える工夫をしている。また、家族からのゼリー等の提供、トロミの使用等で工夫しながら確保している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行っている。声かけで促し必要な人には準備や介助を行っている。週一回義歯洗浄を行っている。口腔内の異変がある場合は、家族との相談で歯科受診、往診を検討し実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めており、その人に合わせたトイレ誘導声かけにて排泄の失敗をなくす努力をしている。また座位の取れる方は介助でトイレに座って頂いている。</p> <p>(外部評価) チェック表を用いて利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけをしてトイレへ誘導している。3か所あるトイレは、利用者の身体状態に応じて使い分けており、トイレ内には利用者が作ったペーパーバックやお尻ふきが置かれ、使用した紙オムツを覆い隠す工夫がされている。また、オムツなどの利用者にあった排泄用品を選択したり、夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援をしている。肋骨骨折の治療をした利用者が、トイレへの誘導を行い排泄支援したことにより、利用者自身でトイレへ行けるようになった事例もある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食事量・水分チェックにて1日の食事・水分量に気をつけている。また、排泄チェック表から個人のパターンを把握し便秘予防に取り組んでいる。医療連携看護師・主治医と相談しながら服薬の検討もしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 本人の希望を尊重し、個々に応じた入浴を支援している。</p> <p>(外部評価) 週3回の入浴であったが利用者の希望もあり、毎日入浴できるよう対応している。入浴を嫌がる利用者には、声かけやタイミング、職員を交代するなどの工夫をし、気持ち良く入浴できるよう支援している。管理者は職員の声かけの仕方により利用者の安心感が異なってくると考えており、気持ちの良く声かけをする配慮などを指導している。また、浴槽に浸かることが困難な利用者にはシャワーキャリーを活用し、シャワー浴を行うなど清潔保持に努めている。また、清拭をして清潔を保つ場合もある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 本人の意思で休んで頂いている。一人で移動できない方、体調不良の方は介助で休んで頂く。夜間眠れるよう昼間の生活を工夫している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋を個々のファイルに閉じて用法容量を理解している。服薬支援と症状の変化確認には努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 皆で笑ったり喜んだりしてもらえるようその人にあった家事やレクリエーションを提供し職員一緒に日々過ごせるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度外出・ドライブ・買い物等に行き、日常では中庭のデッキの散歩・野菜の手入れ希望と状況に応じ外出できるよう支援している。家族にも外出の相談・依頼を行い協力してもらい外出支援をしている。 (外部評価) 中庭のウッドデッキには自由に出ることができ、日常的に外気浴を楽しんでいる。事業所の隣にはコンビニがあり、利用者と散歩がてら買い物に出かけている。利用者の希望に応じて、遠方のスーパーや道の駅などにドライブに出かけることもある。また、季節に応じて、地域行事となっている花見や涅槃像の参拝に出かけるなど、利用者が外出を楽しめる機会を提供できるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には事業所が管理している。しかし家族の了解にて自分で管理されている方もおられる。買い物行事では、支払いをできるだけ入居者にして頂けるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、電話をかけたり手紙のやり取りができるようにしている。また、家族から電話をして頂き、電話に出て頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者さんがゆったり清潔に過ごせるよう環境整備を行っている。花や掲示物にも工夫しレクリエーションで作った作品、利用者の写真を飾り楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) オープンキッチンのあるリビングは明るく広々としている。ソファが置かれているほか、畳コーナーもあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には職員が制作した朝顔や花火など季節の飾りつけをしている。また、利用者が作成した作品や書道、記念写真が飾られ、和みのある空間となっている。環境整備が行き届いており、利用者が落ち着いて居心地よく過ごせるよう配慮している。中庭にはウッドデッキや花壇があり、落ち着いた雰囲気となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアでの席順や個室での利用者同士の行き来、一人ひとりの居場所作りができています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた寝具・テレビ等持ち込みが出来ている。馴染みのある置物やお誕生日カード・写真等で安心して過ごして頂けるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、洋服ダンス、整理ダンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。テレビや家具など利用者の使い慣れた物を持ち込み、お気に入りのぬいぐるみや家族写真を飾るなど、利用者が落ち着いて居心地良く過ごせる空間となっている。シーツなどの寝具はレンタルでの対応もしている。また、寝室と洗面所を仕切るカーテンが設置されており、利用者のプライバシーを確保する配慮をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ベッドの位置や家具の位置を工夫し安全に自立した生活が送れている。</p>	